

様式 13

## 会派視察研修計画書

令和 6年 9月 12日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名 加藤厚雄

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	大竹敦子・加藤厚雄	
日時	令和6年10月9日（水）～ 令和6年10月10日（木）	
視察先	岩手県盛岡市	
研修内容	第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡	
日程	(視察先到着時間・宿泊先名及び電話も記入) 別紙のとおり	
交通手段	公共交通機関利用	自家用車利用 _____台
	乗降車駅名 ( 碧南中央駅 )	所有者名 ( )

(議会事務局記入)

旅費の額	(内 訳)
円	

## 公明党視察行程表

月 日	発 駅	時 刻	着 駅	時 刻	適 用	
10/9 (水)	碧南中央	6:08	刈 谷	6:30	名鉄三河線	
	刈 谷	6:36	名古屋	6:59	JR 東海道本線	
	名古屋	7:13	東 京	8:51	JR 新幹線のぞみ66号	
	東 京	9:08	盛 岡	11:20	JR 新幹線はやぶさ11号	
	昼 食					
	第19回全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡 第1日目 (13:00 ~ 16:20)					トーサイクラシックホール 岩手 (岩手県民会館)
	宿 泊 R & B ホテル盛岡駅前 (019-653-3838)					
10/10 (水)	第19回全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡 第2日目 (9:00 ~ 11:20)				トーサイクラシックホール 岩手 (岩手県民会館)	
	昼 食					
	盛 岡	13:50	東 京	16:04	JR 新幹線はやぶさ24号	
	東 京	16:21	名古屋	17:56	JR 新幹線のぞみ423号	
	名古屋	18:10	刈 谷	18:30	JR 東海道本線	
	刈 谷	18:54	碧南中央	19:19	名鉄三河線	

様式14

## 会派視察研修報告書

令和 7年 1月28日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名 加藤厚雄

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 2人 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	加藤厚雄、大竹敦子
日時	令和6年10月9日（水）～ 令和6年10月10日（木）
視察先	岩手県盛岡市
研修内容	全国市議会議長会 研究フォーラム in 盛岡
視察先面会者 又は講師名等	1日目・コーディネーター 井上美紀静岡大学教授、 パネリスト 土山希美枝法政大学教授、 越智大貴一般社団法人WONDER EDUCATION代表理事、 渡辺嘉久読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局、 遠藤政幸盛岡市議会議長、 2日目・コーディネーター 河村和徳東北大学准教授、 パネリスト 白鳥敏明伊那市議会前議長、 諸岡覚四日市市議会議員、服部香代山鹿市議会議長
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

## 視察研修成果報告書

令和6年11月8日

議員氏名 加藤厚雄

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期 間 令和6年10月9日（水） ～ 令和6年10月10日（木）
- 2 視 察 先 岩手県盛岡市（全国市議会議長会研究フォーラム）
- 3 視察の種類 会派視察
- 4 視察の成果等

### パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」

地方議会の課題として挙げられるのは投票率の低下である。また無投票当選の増加にある。そして議員の性別や年齢構成の偏りがある。そのため、議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進すること。いわゆる出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に行う主権者教育の取組に対する支援を講ずること。

教育基本法には第8条（政治教育）に良識ある公民たるに必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない。②法律に定める学校は、特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない。文科省の通知には、現実の具体的な政治的事象には、教師自身も教材としてじゅうぶん理解し、消化して客観的に取り扱うことに困難なものがあり、ともすれば教師の個人的な見解や主義主張がはいりこむおそれがあるので、慎重に取り扱うこと。

これでは、学校における主権者教育を行うのは難しい。地方議会がこれをおこなうのも難しいと感じる。教育ではなく、まずは地方議会を知ってもらうのが優先される。

### 課題討議「主権者教育の取組報告」

- ① 伊那市議会 平成30年の市議会選挙が無投票になり議員のなり手不足に危機感を抱き「魅力ある議会づくり検討会」を設置。高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換等の企画を決定する。
- ② 四日市市議会 出前型意見交換会 各常任委員会が、地域の高校・大学に出向いてテーマをもとに意見交換会を開催。将来的には各種団体や組合にも交流する。
- ③ 山鹿市議会 なりたい職業ランキングベスト10入りを目指してシチズンシップ教室を開催し、議会を知る・議員の仕事を理解するように活動している。

## 視察研修成果報告書

令和 7年 1月28日

議員氏名 大竹 敦子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期 間 令和6年10月9日（水）～令和6年10月10日（木）
- 2 視察先 岩手県盛岡市
- 3 視察の種類 研 修
- 4 視察の成果等

#### 第1日目 「地方議会の課題と主権者教育」

「主権者教育の新たな展開」 静岡大学人文社会科学部 伊柳美紀教授

地方議会の課題として、投票率の低下、無投票当選の増加、議員の性別と年齢構成の偏りがあげられていた。また、2015年より18歳からを成人とすることで、18歳以上となる若者に選挙権が与えられ、若者への主権者教育の重要性が高まっている。そのような中で、議会の課題を解決するために、議会への関心を高め、理解を深めていくことが必要であり、一層主権者教育を推進して行く必要がある。

しかし、学校教育の中で、客観的、かつ公平に政治教育を実施することは、日本の学校教育の現場では困難が伴い、慎重になり、進められていない。そこで、18歳からの選挙権を付与するにあたり、文部科学省では、「高等学校等における政治的教養の教育と高等

学校等の生徒による政治的活動等について」通知が出されている。そこには、現実の具体的な生の政治的事象も取り扱い、生徒が有権者として、自らの判断で権利を行使できるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが重要としている。

#### 「誰がための主権者教育か」 法政大学法学部 土山希実枝教授

昨今、高校生議会が開かれる機会が多くなっているが、この機会が真に市民として社会や政治に参加していこうとする次世代を担う高校生にとって、将来、政治に無関心でなく、また、政治不信になることも無いように、将来、政治に関心を持ち、主権者として選挙権を行使し、また、政治に興味を持ち、政治家としての道に進むかもしれない入り口となるものにしなければならない。そのための高校生議会をするためには、教師に手を入れてもらった作文を高校生が朗読して、それに対して、議会や市がコメントするだけの形式的なものであっては、高校生議会を実施する意味がないと言える。

日頃、接することの少ない議員と直接向かい合って話す機会を設けることが必要である。若き市民である高校生の声をどのように受けとめ、政策に生かしていくか、その対応が高校生たちの議会に対する信頼に直結していくような実りある意見交換ができて、若き市民である高校生と議員が学びあう高校生議会である必要がある。そのためには、議員側もそのための労力をかける必要がある。

#### 「若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性」

##### 一般社団法人WONDER EDUCATION 越智大貴代表理事

若者は、政治をどのようにとらえているかという調査によると、日本の若者は、政治に特別関心が低いわけではないが、自分で国や社会が変えられるとは思っていない。しかし、社会のために役立ちたいと思っている。このことから、政治に関心がないから選挙に行かないというよりも、どうせ変わらないから選挙に行かないということが分かる。しかし、一方で、社会のために役立ちたいと思っていることもわかった。

しかし、今の主権者教育は、「選挙に行こう。」ということが主になっており、模擬投票や総合的な時間を活用した授業では、「自分で社会を変える」体験になりづらい。そうならないための主権者教育は、議員の仕事などについてフリートークやキャリア教育で、自分たちの行動で国や社会が変えられるという感覚を持たせることがカギとなる。それには、議会と若者が縦の関係でなく同等であり、若者と機会を作るという意識を持つことが必要になる。

投票に行くかどうかを判断する時、政治を知らない自分が投票に行き、間違った判断をしてはいけないから、投票に行かないという人もいます。しかし、希望を持つことができる社会にするためには投票することが必要であり、それが自分の未来を選ぶことになる。そのためには、情報が必要である。だれに投票するかは、自分の未来をいかに進めてくれるか、その未来を決めるための情報とそれが正しいかどうかを判断し、進めてくれる人を選ぶことが大切である。政治は未来であり、政治とつながることは未来とつながることであり、政治を考えることは、未来を考えることであり、自分の未来を想像することになる。

「盛岡市議会の取組み」 盛岡市議会 遠藤政幸議長

18歳以上が選挙権を持つようになり、次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めることを目標に、市議会として、主権者教育に取り組むこととした。まずは、議会の役割を理解し、市の施策を身近に感じる機会になるよう、「住み続けたい街」をテーマに、議員と高校生が直接交流する場を設け、市の課題について意見交換し、提言をまとめた。それにより、参加した高校生から、「議会の役割を理解できた。」「市政に関心を持った。」との声があった。

また、市議会が市内の3大学に出向き、「おでかけミーティング」を実施した。

2日目「主権者教育の取組報告」

「高校生の議会傍聴と意見交換会の取組」 伊那市議会 白鳥敏明前議長

平成30年の市議会議員選挙で議員の成り手不足により、無投票となり、危機感を感じる。その後、「魅力ある議会づくり検討会」を設置し、開かれた議会を目指して若い世代特に高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の議会の傍聴と意見交換の企画を決定し、議長と事務局長で市内の各高校を訪問し、実施を依頼した。令和元年度より、コロナで中止した令和2、3年を除き、毎年実施している。これらの活動により、高校生から意見が多く出されるようになり、高校生からの要望書、請願書も提出され、全会一致で採択されるなど、高校生にとって議会が身近になり、活発な活動が行われていることが報告された。また、市議会へSNSの発信など若者らしい提案も出されていた。

「四日市市議会 主権者教育の取組について」 諸岡覚市議会議員（第83代議長）

四日市市議会では、正副議長は立候補による所信表明（公約）によって選出され、令和元年度の議長の公約で高校生・大学生を対象とした「ワイ！ワイ！GIKSAI」が始

まった。令和4年度より、実際には、中学生を対象に開催された。内容としては、グループに分かれ、それぞれのテーマでディスカッションし、最後に、内容と感想の発表、記念撮影となっている。議会の対応は、そのテーマごとに、意見を整理し、課題を抽出し、今後の論点を確認し、調査報告書作成する。その後、生徒が再度議会を訪問した際、その調査報告書を生徒に手渡し、本会議も傍聴している。

また、「よっかいち市議会#子ども号」を発行し、年に一度、全中学校に配布している。

#### 「山鹿市議会が取り組んだシチズンシップ教室」 山鹿市議会 服部香代議長

山鹿市議会では、開かれた議会になっていない、住民の理解と関心が得られていない、なり手不足などの課題があった。議員のなり手不足の要因としては、仕事内容がわからない、そして、政治に主体的に関わるための民主主義を学ぶ必要性がある。それらは、議論をして最終的に意見を集約していく経験を子どもの時から経験しておくことが必要ということになり、小学校で「シチズンシップ教育」を実施することになった。

「シチズンシップ教育」では、市議会について、議員の仕事について、選挙の意義や投票の大切さを伝えることとした。市内の10校に出前講座で実施している。出前講座では、「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」という絵本を使って、投票、開票、結果流れを伝えた。その後、模擬投票をした。参加した子ども達からは、「議員の仕事をしてみたい。」「選んだ人によってどんな未来なるの関わるのが分かり、投票の大切さを知った。」「真剣に選んで投票しようと思った。」などの感想が寄せられた。子どもが実際に議員と会うことが大切であり、そのことが、親の投票行動につながっているとのことだった。

#### 提言

主権者教育の重要性がよく理解できた。本市でも、過去に高校生議会を開催しているが、それは、イベント的な行事であり、何の意味もないことがよくわかった。高校生達との意見交換は必須項目であるが、それもしていない。高校生から質問された要望についても、議員で討議することも無かったと思う。これからの碧南市を担う子ども達に、政治が生活に密着し、政治によって自分たちの未来が決まり、自分たちで社会を変えていけることを教え、自分たちが社会の主体者であるという自覚を形成させなければいけない。そう考えた時、主権者教育は必要不可欠な事業であると感じる。それには、議会側の取り組み方が重要であり、真摯に議論し、実りあるものにしていく努力をしていかななくてはならない。今後、しっかり検討し、取り組んでいくべき課題である。